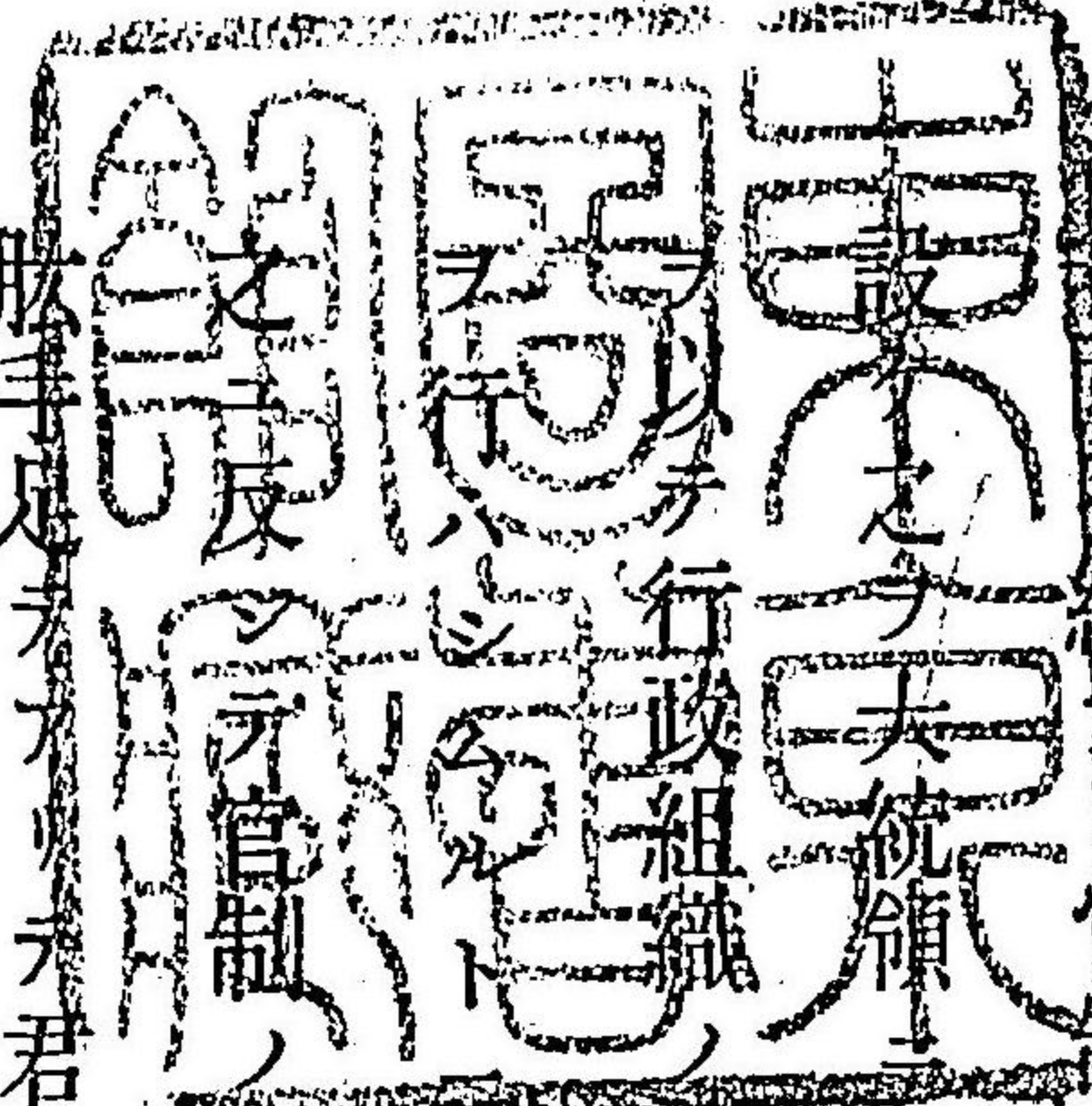


27 m 85

18

243

N<sup>o</sup> 422/XXIV



憲法第六十七條ニ關スル意見

官制ト豫算トノ關係ハ何レノ國ニ於テモ豫算會議ノ時ニ往々起ル所  
ノ問題ナリ亞米利加ノ如キハ豫算ヲ以テ官制ヲ改革スルヲ得共



和國ハ總テ官制ヲ法律ヲ以テ定メ議院ノ議決ニ依テ行政ノ組織ヲ  
委任スルカ故ニ豫算モソレト同様ノ事ニシテ豫算  
ヲ以テ行政組織ノ雛形ヲ作り之ヲ大統領ニ渡シ委託シテ一年ノ行政  
ヲ行ハシムルト云フノカ共和國ノ主義テアル立憲君主國ニ於テハ  
之ニ反シテ官制ノ組織ハ君主ノ大權ニ屬シ文武ノ官制ハ即君主ノ股  
肱手足ヲ以テ君主ノ隨意ニ制定スル所ノモノテアル並ニ俸給ニ付

テモ既ニ定マリタル俸給ハ即君主ノ隨意權ノ内ニアルコトニシテ議  
會ハ喙ヲ容レヌ是レハ各國ニ於テハ多クハ古來ノ慣習憲法上ノ德義



トナシテ、行ハレテ居ルコトテアルカ、併シナカラ明文ニ之ヲ規定シテナキ故ニ往々紛議ノ種子トナルコトアリ我國ノ憲法ハ此ニ見ル所アリ明カニ大權ヲ正條ニ掲ケタルノミナラス更ニ第六十七條ニ於テ豫算會議ノ手續ヲ明記シテ以テ帝國議會ノ遵由スヘキ約束トナシ豫メ立法ト行政トノ衝突ヲ避クルコトノ望ヲ表シタリ

且豫算會議ノ時豫算ヲ全廢シ又ハ豫算ノ金額ヲ過度ニ節減シテ以テ議會ノ政府ニ對スル不信用ヲ表白シ之ヲ以テ脅迫手段ト爲シタルハ歐羅巴ノ古キ歴史ニ往々見ル所ニシテ今日ニ於テモ其ノ議論ハ學者ノ著述ニ遺ル所ナリ然レトモ近來ニ至リテ歐羅巴ノ文明諸國ニ於テ豫算拒絶ヲ以テ政府ニ迫ルノコトハ殆ト絶エテ見サル所ニシテ是レヲ以テ歷史上ノ遺事ト爲スニ過キス(但シ千八百七十一年「メルボ

ルン」ノ議會カ豫算ヲ全廢シタルハ格別)其ノ故ハ各國憲法上ノ德義漸々高尚ノ度ニ達シタルト及ヒ各國ノ富力増進シテ毎年ノ歲入ハ歲出ニ超過スルニ至ルニ由レルナリ然ルニ始テ憲法ヲ實施スルノ國及ヒ國ノ富力未タ増進セサルノ場合ニ於テハ豫算ノ必要定額ヲ廢除削減シテ以テ行政ノ困迫ヲ致スハ容易ニ有ルヘキノ事ニシテ之ニ依テ立法行政ノ調和ヲ損ヒ立憲ノ美果ヲ妨クルニ至ルコトナキヲ保セサルハ蓋シ帝國憲法起草ノ際ニ當リ固ヨリ憲法其ノ物ノ豫想スルコトヲ得タル所ナルヘシ故ニ我カ帝國憲法ハ第六十七條ニ於テ豫算會議ノ約束ヲ明記シテ以テ此ノ容易ニ起ル所ノ衝突ヲ防カントシタリシナルヘシ若シ立憲ノ基礎既ニ鞏固ニシテ行政ト立法トノ間ニ圓滑ナル慣習ヲ作ルノ後ニ於テハ此ノ正條ナシト雖官制軍制又ハ法律又



ハ義務ニ屬スル費用ニ付イテハ議會ハ豫メ之ヲ政府委員ニ打合セ十分ノ熟議ヲ遂ケタル後ニ決議スルコト疑ヲ容レサルヘキモ其ノ未タ此ノ如ク馴熟ナル程度ニ達セサルノ間ハ此ノ第六十七條ヲ以テ窮屈ナカラモ議事ノ順序トセサルコトヲ得サルヘシ

但シ議會ハ此ノ第六十七條ノ爲ニ牽束セラレテ自由議決ヲ爲スコトヲ得サルカ爲ニ此ノ第六十七條ヲ解釋シテ其ノ効力ヲ薄弱ナラシムルノ手段ヲ取ルハ是レ亦一ノ變態ヲ顯ハシタルモノナリ第六十七條ノ効力ヲシテ薄弱ナラシムルノ解釋ノ手段トハ即政府ノ同意ヲ求ムルノ手續ヲ後段ニ廻シテ先以テ自由ニ廢除削減シ既ニ確定議ヲ經タル後之ヲ上奏シテ然ル後ニ政府ノ同意又ハ不同意ニ一任スト謂ヘルコト是ナリ(若兩院合意ノ後ニ政府ニ協議シ同意ヲ求ムルナリト云

ハ、政府ノ不同意ノ時ニハ再ヒ衆議院ニ向テ再議ニ付スヘキヤ我カ憲法及議院法ハ再議ノ規定ナシ、マサカニ此ノ如キノ說ハアラサルヘシ)此ノ解釋ニ依ルトキハ政府ノ同意トハ即天皇ノ裁可權ト混同スルモノニシテ議會ノ議決ハ其ノ六十七條ニ關係スル費目ナルト又ハ六十七條ノ外ノ費目ナルトニ拘ラス普通一般ノ讀會ヲ經衆議院ヨリ之ヲ貴族院ニ廻シ貴族院議決ノ後又普通一般ノ手續ニヨリ之ヲ上奏シ上奏ノ後政府ニ於テ若シ不同意ナルトキハ之ヲ裁可セラレサルヘシ第六十七條ノ示ス所ハ斯ノ如キノ手續ヲ顯ハスト云ニ過キス果シテ然ラハ政府ノ同意セスシテ之ヲ裁可セサルノ結果ハ如何即消極ノ働キヲナシ豫算ノ不成立トナル斯ノ如クナレハ憲法第七十一條ノ外ニ第六十七條ヲ設ケタルノ必要ハ全ク地ヲ拂ヒ此條ノ効力ハ毫モ實



際ニ存在スルコトナキニ至ルヘシ憲法六十七條ハ毎年ノ議事ニ於テ立法行政ノ間ニ調和ナル事前ノ協議ヲ遂クルノ標準ヲ示シタルモノニシテ彼ノ稀ニ見ル所ノ豫算不裁可ノ場合ヲ指示シタルモノニアラス若シ毎年ニ取扱フヘキ協議ノ手續ヲ誤解シテ政府ノ不裁可ノ權ヲ指スモノトセハ是レ今日ノ府縣會ト一般ニシテ殆ト毎年ニモ不裁可ノ大權ヲ濫用スルノ端ヲ開クヘシ第六十七條ノ主義ハ豈此ノ如キモノナランヤ此ノ解釋ハ蓋シ政事家ノ爲ニスルコト有ルノ論ニシテ此ノ條ノ牽束ヲ避クル爲ノ一手段ニ過キサルノミ

其ノ上文字ニ付イテ之ヲ分析スルニ政府ノ同意ナクシテ廢除又ハ削減スルコトヲ得スト云ヘル同意ノ有無ハ議會カ政府ニ對シテ求メタル結果ナリ之ヲ求ムルノ手段ヲ爲スニ止マラスシテ其ノ之ヲ求メタル

ルノ結果トシテ或ハ同意或ハ不同意ト云フコトヲ生ス政府ノ同意アレハ廢除削減スルコトヲ得ヘク政府ノ同意ナケレハ廢除削減スルコトヲ得ヘカラス其ノ同意ノ質物ヲ手ニ握リタル後ニアラサレハ議會ハ廢除削減ノ確定ノ働キヲ爲スコトヲ得ス然ルニ廢除削減ノ議決ヲ爲シタル後ニ政府ノ同意ヲ求メテ以テ本條ノ示ス所ノ手續ヲ履行スト云ヘルハ即枉ケテ本條ヲ解釋シタルモノニシテ本條ノ効力ヲ麻痺薄弱セシムルモノニアラスシテ何ソ

右ニ述フルカ如ク六十七條ノ指示スル所ハ先事前協議ニ依リ政府ノ同意ヲ得テ後ニ確定ノ廢除削減ヲ爲スコトヲ得ルモノトセハ此ノ論理ノ結果トシテ帝國議會ノ各院ニ於テ其ノ廢除削減ノ確定ノ議決ヲ爲スコトノ前ニ先ツ以テ政府ト打合セヲ爲サルヘカラス是ニ於テ



カ政府ノ同意ヲ求ムルハ兩院合議ノ後ニ於テスルノ説ノ誤タルコトヲ證明スヘシ兩院合議ノ後ニ於テ始メテ政府ノ同意ヲ求ムヘシトノ説ハ即政府ノ同意ト云フコトヲ以テ上奏ノ後ノ天皇ノ裁可ニ混同シ以テ六十七條ノ効力ヲ麻痺セシムルニ外ナラス

今一院ニ於テ政府ノ同意ヲ得シテ六十七條ノ費目ヲ廢除削減シ普通ノ確定議ヲ終ヘテ一ノ修正案ヲ作り之ヲ他ノ一院ニ廻付シタルノ事アリト假定メンニ我カ立憲ノ歴史ハ茲ニ困難ノ一問題ヲ生スルナルヘシ何トナレハ若シ六十七條ヲシテ有効ナラシメントスレハ此一院ノ議決ヲ無効ナラシメサルコトヲ得ス若シ此一院ノ議決ヲ敬重シテ之ヲ有効ナラシメントスレハ憲法第六十七條ノ効力ヲ麻痺セシメサルコトヲ得ス何レカ一方ハ已ムナク無効ニ歸セサルコトヲ得

ス憲法第六十七條ハ議會ニ對シ政府ヲ以テ第三者トシテ政府ノ同意ナキ場合ニハ廢除削減スルコトヲ禁シタリ議會若シ此ノ禁ヲ犯シテ政府ノ同意ナキニ廢除削減ノ議決ヲ爲シタランニハ其ノ議決ハ憲法ノ眼ヨリ視ルトキハ憲法ノ禁令ヲ犯スモノナリ凡一般ノ法理トシテ法律ノ禁令ヲ犯ストキハ其ノ所作ハ無効タラサルコトヲ得ス第三者ノ位置ニ居ル政府カ認メテ無効トスルニアラス議會ノ議決ハ憲法ニ對シテ法理上自然ニ無効ニ歸スルモノナリ

序ニ一言スヘキ事アリ反對ノ論者中ニハ或ハ帝國議會トアル故ニ兩院合意ノ後ニ非レハ同意ヲ求ムヘキモノニ非ス又ハ少クモ兩院合意ノ後ニ同意ヲ求ムルヲ妨ケスト云フモノアリ此ノ説ヲ爲ス人ニ注意シタキ事アリ帝國憲法ヲ通覽シテ其ノ用語法ノ凡例ヲ吟味



スルトキハ自然ニ其ノ疑團ヲ冰解スルナルヘシ憲法ノ各條ニ於テ  
 立法部ト行政部トノ關係ヲ示ストキハ總テ帝國議會ト云テ立法部  
 ノ全体ヲ提クルヲ例トス其ノ兩議院ト云ヒ又ハ各議院ト云ヘル場  
 所ハ必議院ト議院トノ關係ヲ示スカ又ハ議院ノミニ關リテ其ノ會  
 議ノ規程又ハ職權ヲ示ストキニ限ル第六十二條第六十四條第六十  
 六條第六十七條第六十八條第七十條第七十一條第七十二條ノ如キ  
 皆帝國議會ト云ヒテ兩議院ト云ハス而シテ其ノ協賛ト云ヒ承諾ト  
 云ヒ又ハ廢除削減ト云ヘルハ皆各院各自ニ之ヲ爲ス者ニシテ決シ  
 テ兩院合同ノ議決ヲナスコトヲ命スル者ニ非ス  
 又或一說ニ法文ハ廢除削減スルコトヲ得スト云テ議決スルコトヲ  
 得スト云ハスト云フカ如キハ殆ト辯解ノ必要ナキ者ナリ議會ノ働

キハ議決ヨリ外何モ爲シ得サル者ナリ廢除削減ハ議決ナリ議決ノ  
 外ニ廢除削減ナシトス

明治廿四年二月二十一日出版御廬

東京牛込區市ヶ谷藥王寺前町八十番地  
 熊本縣士族

著者兼發行人

井 上 毅

明治廿四年二月二十日 印刷

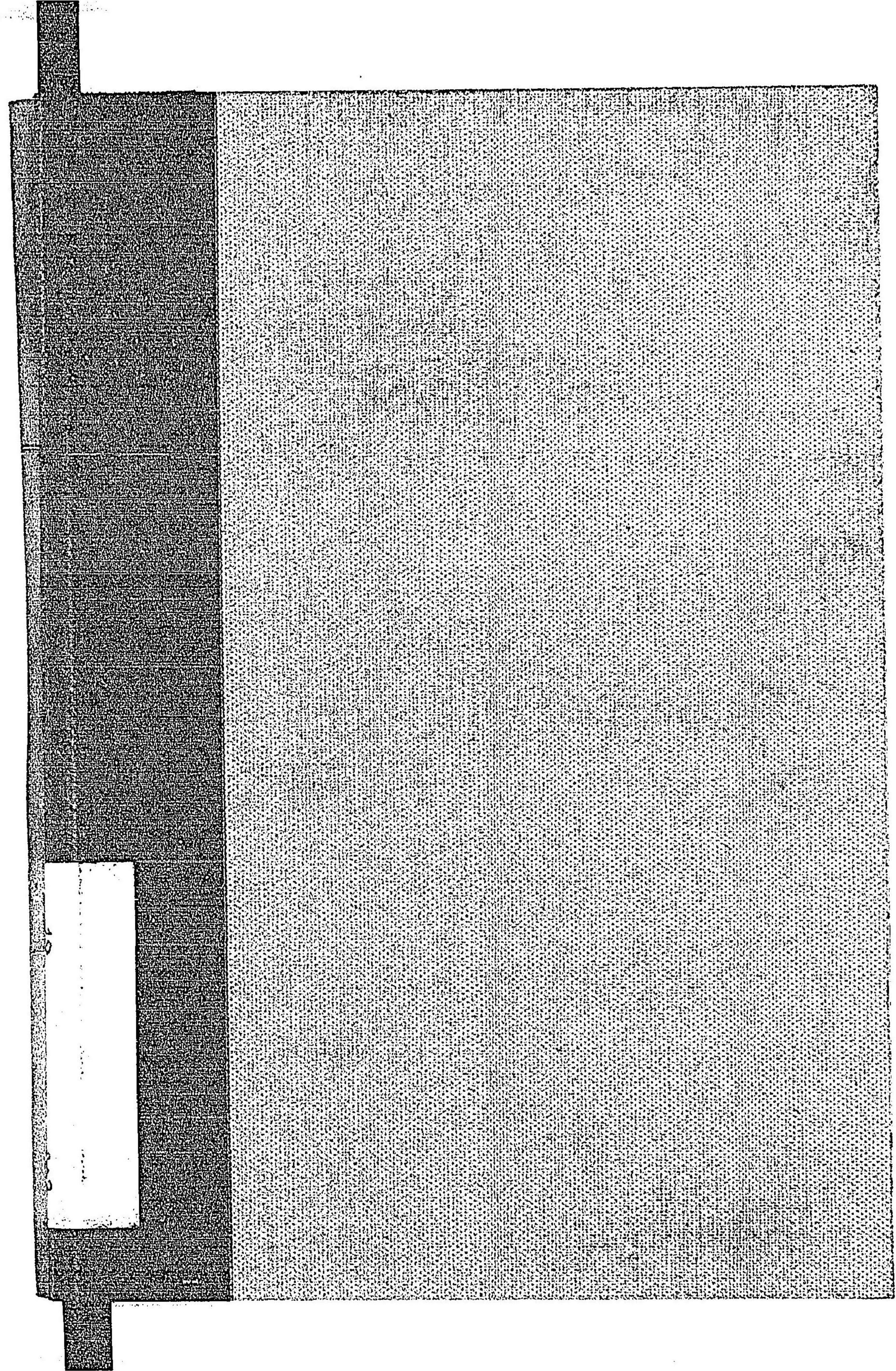
印刷局 印行

18  
2  
243



1708







18

243

憲法第六十七条に関する意見

国立国会図書館

031507-000-3

18-243

憲法第六十七条ニ関スル意見

井上 毅/著

M24

BBE-0106

